

Affiliated with the International Association
THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HACHIOJI
Chartered October 30, 1994



〒 194-0211
東京都阿田市相原 1857
長谷川 あや子 TEL : 042-771-6962
FAX : 042-771-6962
E-mail : ayako.h3@nifty.com

2016 年 4 月

第250号

The Service Club of The YMCA

東京八王子 ワイズメンズクラブ

会 長 長谷川 あや子
副会長 中塚 辰生 望月 隆珉
書 記 山本 英次
会 計 小口 多津子
林外会長 大久保 重子
担当主事 中里 敦
ブリテン 山本 英次・茂木 稔
大久保 清
直前会長 久保田 貞視

国際会長主題 Wichian Boornmapajorn(タイ) 「信念のあるミッション」
スローガン: "Count Your Blessing" 「恵みを数えよう」
アジア地域会長主題 Edward K. W. Ong (シンガポール) 「愛をもって奉仕をしよう」
スローガン: "Let it Begin with Me" 「まず自分から始めよう」
東日本区理事主題 渡辺 隆 (甲府): 「原点に立って、未来へステップ」
"Stand at the origin and take a step for the future"
あずさ部部長主題 標 克明 (甲府) 「ワイズメンとして一歩前進」
クラブ会長主題 長谷川あや子 (八王子) 「若い人の成長を願い、ともに歩む」

2016年4月 第一例会プログラム

日時: 4月23日 (土) 18:00~20:00

場所: 北野事務所 2階 大会議室

受付: 福田 多河

司会: 橋本

開会点鐘 会 長

ワイズソング 一 同

ワイズの信条 一 同

ゲスト・ビジターの紹介 会 長

聖書朗読・食前感謝 眞野 (多河)

会食

卓話 「みんなで踊ろうふるさとの民謡・盆踊り」

卓話者: 相原安津子さま

日本フォークダンス連盟日本民謡公認指導者

炭坑節 (福岡県)、東京音頭 (東京都)、河内音頭 (大阪府)

鹿児島おはら節 (鹿児島県)、太陽踊り (八王子) 他

報告: 連絡事項 会長・担当者

スマイル 福 田

ハッピーバースディ 会 長

閉会点鐘 会 長

巻頭言

次期クラブ会長・次期部役員研修会報告

中塚辰生

3月5日 (土) ~6日 (日) に東山荘にて開催された次期クラブ会長・次期部役員研修会に出席しました。13:00~13:30、本館2階講堂にて、開会式並び研修 I ~ VIが行われた。クラブ会長は60クラブ中、38名の出席でした。開会式は、北村文雄LT委員の司会で、渡辺 隆東日本区理事の開会挨拶、並びに役員LT委員の紹介後、大川LT委員から、オリエンテーションが行われた。研修 I (13:30~14:20) 講堂にて (1) 東日本区の現況が、渡辺 隆理事より、(2) YMCA理解と支援報告が、田尻東日本区担当主事より、(3) 東日本区次期理事方

先月の例会ポイント (12月)		BF ポイント	
在籍	18名	切手 (国内・海外)	240g
メン	15名	累計	240g
メイキャップ	0名	現金	0円
出席率	83%	累計	0円
メネット	5名	スマイル	0円
ゲスト	1名	累計	66,111円
ビジター	0名		
ひつじぐも	11名	オークション	0円
		累計	15,000円

(聖 句)

「終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて名誉なことを、また、徳や称賛に値することがあれば、それを心に留めなさい。わたしから学んだこと、受けたこと、わたしについて聞いたこと、見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神はあなたがたと共におられます。」

(フィリピン人への手紙4章8節~9節)

針並びに、国際、アジア会長の主題並びにスローガンの説明が、利根川恵子次期東日本区理事より行われた。

次期東日本区理事の主題は、「明日に向かって、今日動こう」 スローガンは：「手を取り合って、今、行動を！」でした。

続いて、研修Ⅱで（14:30～15:40）講堂にて、元アジア太平洋地域YMCA同盟総主事、山田公平氏より、基調講演「これからのワイズ、YMCAにとってのワイズ」と題して、1. アジアで見るワイズの現実、アジアの現実、世界の現実

- ・世界のワイズメン 3万人の70%が、アジア（パシフィックを含む）3地区
- ・ワイズの減少が続く、米、加、英、仏、豪、—北欧は活発。現状維持、微減—アジア各国（日本、台湾、香港）

2. ワイズとYMCAの協働をどう進めるか（今後の協働をどう進めるか？）

- 1、両団体のリーダー間で、話し合いを国毎に行う。
- 2、協働で行うプロジェクトを計画。
- 3、YMCA現主事のワイズへの参画。
- 4、これからの関係の在り方を話し合う。
3. TOFについて、ミャンマーでのTOF・毎年、20～25万ドル（3千万円弱）を、20～30のプロジェクトに支援。・YMCAが提案、ワイズが協力。
- ・新たなワイズ設立につなげたい（カンボジャ、ミャンマー、モンゴル ミャンマー カッチン州でのプロジェクト、大学生の麻薬中毒者の更正支援。

4. これからのワイズ、YMCAにとってのワイ

- ・YMCAが何を必要としているか？
- ・YMCAにとってのワイズ→ YMCAがワイズに期待する事。の各項目につき、YMCA、ワイズにとって、示唆に富んだ提言に、多大な感銘を受けた。

研修Ⅲ（16：00～17:20）では、7部が5グループ（小会議室等）に分かれて、下記（1）～（5）の方針を、ローテーションで伺った。

- （1）地域奉仕事業方針：加藤 隆次期事業主任。
- （2）会員増強事業方針：菊池弘生次期事業主任。
- （3）国際・交流事業方針：太田勝人次期事業主任。
- （4）ユース事業方針：大久保知宏次期ユース事業主任。
- （5）メネット活動について：相磯優子次期メネット委員長より、1人約10分の各グループローテーションで伺った。

その後、割り当ての6号館で、チェックインを経て、再び講堂で、18：30～20:30に夕食懇談会が行われた。その後は、6号館の各部屋で、「部長を囲んでの懇親会」が行われた。

第2日目は、本館食堂での朝食（7:30～7:40）後、講堂にて、聖日礼拝（8:00～8:30）後、研修Ⅳが講堂にて（8：50～9：50）行われた。

- （1）国際・アジアエリアの現況：（渡辺 隆 東日本区理事）（2）部事業主査の役割：（東新部直前部長 太田勝人氏）（3）部書記計の役割：（次期東日本区書記・山本剛史郎氏）（4）事務手続きのポイント：（次期東日本区書記・山本剛史郎氏）（5）会計について：（次期東日本区会計・吉田公代氏）（6）ロースターの校正・発注について：（伊藤幾夫LT委員長）（7）物品販売について：物品担当 村杉克己氏

- （2）続いて、分科会（10：00～11：30）が、次期会長グループと次期事業主任・次期事業主査グループに分かれ、講堂、会議室に分かれ、私は次期会長グループで、講堂にて、伊藤LT委員長の司会で、「質疑応答」、クラブ会長の務め、に出席した。

研修Ⅴが（11：40～12：00）、「IT利用による情報伝達について」ITアドバイザーの、大久保知宏氏から、説明を伺った。研修Ⅵが（10：00～12：15）、北村文雄LT委員より、「アンケート回収伝達／ワイズクイズ解答配付」（自己採点）／解説を伺った。

その後、閉会式（12：15～12：15）が、利根川恵子東日本区次期理事の、閉会挨拶、渡辺 隆東日本区理事の閉会点鐘で、2日間の研修会が終了した。

観客席から

仲田 節子

「東日本大震災支援と地雷廃絶のために」と銘打ったチャリティコンサートである。黒いドレスの三上佳子さんがフォーレ作曲の「夢のあと」と「レクイエム」を歌って犠牲者に祈りを捧げる気持ちから始まったコンサートだった。

三上さんがこのコンサートの計画を立て始めたころ、パリのあの悲しいテロ事件のニュースが流された。それが第1部を「パリに思いを馳せて」というテーマにした契機だったようだ。三上さんが深尾須磨子の詩による静かな「パリ旅情」を歌った後、テノールの川村敬一さんが、西条八十作詞の「お菓子と娘」マイク・ガーディン、マイク・ウィルシュの「オー・シャンゼリーゼ」と明るくパリを歌ってくださる。川村さんは三上さんと腕を組んで歌いながら、「美女と野獣のようー」などと冗談をおっしゃるが、どうしてどうして素敵なお衣装を着た川村さんは、野獣どころか白馬の騎士のようである。

1部の最後はピアノの大杉祥子さんがドビュシーの「亜麻色の乙女」と「ゴリウオークのケーキ・ウォーク」の2曲を弾いてくださった。

15分の休憩の後は第2部の「春です桜です」の幕開けである。三上さんは綺麗な桜色のドレスに着替えて、加藤周一作詞の「さくら横ちよう」2曲を歌ってくださる。

続く川村さんの「荒城の月」にも三上さんは澄んだソプラノで加わり、ユーモアたっぷりの「電話」の後、「船頭小唄」にも加わった。声量たっぷりの川村さんに三上さんのソプラノは控えめに寄り添い、美しいハーモニーだった。

その後ピアノで「さくらさくら」を弾いてくれた大杉さんは、大の桜好きだそう。仕事の後でも、夜行バスで桜を見に行くと言うくらいの愛好家である。今日は地味な紺色のドレスだが、桜色が似合いそうな美しい女性である。

ピアノの後はプログラムに挟んだプリントを使って野口雨情作詞の「春の歌」と滝廉太郎の作曲で有名な「花」を聴衆と一緒に合唱する。

最後は三上さんの「さくら さくら」である。この歌には、筆者にも思い出がある。今イギリスでパイプオルガンを弾いている長女が結婚した時、披露宴にお招きした三上さんが歌ってくださった歌なのだ。小学生の頃三上さんからピアノを習った娘にとっては、旅だちの励みだったことと思う。遠い外国の教会でオルガンを弾く娘を思って、私はちょっと涙ぐんでしまった。

三上さんの歌の後、八王子Y,Sから感謝の花束贈呈である。中央大学の学Yの人たちに壇上に上がってもらった。花束を抱えた3人を囲んで、主催者側のY,Sのメンバーが「花は咲く」を合唱して、コンサートの幕は下りた。

ロビーに展示された地雷やパネルを見て献金してくださったお客様が、「楽しかったよ」と声をかけてくださって嬉しかった。でも、このコンサートの成功の陰には、長い間準備に心を砕いてくれたメンバーの努力を忘れてはならない。実行委員長の並木さんをはじめ、プログラムを作ってくれた茂木さんら陰で働いてくれた人が大勢いるのだ。中央大学の学生たちも、最初から最後の後付けまでよく手伝ってくれた。

成功を祝うと共に、すべてに感謝して、新しい活動に歩みを進めよう。



三上佳子先生と川村敬一先生と大杉祥子先生を囲んで
八王子ワイズメンとメネットと中大ひつじぐもの皆さん

街頭募金そして チャリティーコンサートご報告

実行委員長 並木 信一

第18回チャリティーコンサートを翌週に控える、3月5日(土)、午後2時～4時、JR八王子駅北口で「東日本大震災被災者支援」及「対地雷&クラスター爆弾廃絶運動支援」を目的に、街頭募金を行いました。

この、街頭募金は八王子クラブにとって年1回の恒例の行事となっていますが、年によって天候条件や募金目的への市民の関心度等により、募金活動への反応が異なります。昨年は曇天でとても寒く、予定を早めに切り上げるほどでしたが、今年はとてもあたたかく、恵まれた天候でした。協力頂いた方の中には地震被災地域にゆかりの方もおり、また、一万円札を投じて下さった方もいました。東日本大震災から5年の節目の時、マスコミが此の事をキャンペーンしていることもあり、一般市民の被災者支援への関心の高さを感じ取ることができました。募金への応募額は、昨年の約26,500円に対し50,710円となり、よい成果を得ました。

参加者は、クラブメンバーが、長谷川、小口、福田、多河、橋本、茂木、久保田、山本、並木、大久保メネ、久保田メネの11名、中大生が小林、佐藤(克)、佐藤(千)、須郷、渡邊の5人、合計16名でした。

3月12日のチャリティーコンサートには、我々クラブメンバー、中大生を合わせて約260人の来場者があり、会場はほぼ満席となりました。プログラムは、八王子市長からの祝電披露、地雷廃絶日本キャンペーン理事の渡邊美緒貴さんの挨拶からはじまりました。ご出演いただいたソプラノの三上佳子さん、テノールの川村敬一さん、ピアノの大杉祥子さんのお三方ともに、昨年を引き続いてご協力頂いていることもあり、プログラム運営は概ね円滑に進めることができました。来場者のアンケートの結果でも、概ね好評をいただきました。

私たちのチャリティーコンサートは、出演者のボランティア精神によるご協力によって成り立っており、あらためて、ご出演頂いたみなさまに心からの感謝を捧げたいと思います。

街頭募金及びチャリティーコンサートの益金29万円は目的にそって用いさせていただきます。寄付を寄せていただいた方、チケットを購入頂いた方、ご来場を頂いた方、全ての皆様に感謝致します。



楽しさと豊かさを共有したメネット例会

「小山正直さん」を偲んで

東日本区メネット委員長 利根川 恵子

小口多津子

2年前までは東日本区内の62クラブ中15クラブにメネット会またはメネットクラブがあったものの、今では10クラブ程度に減ってしまっています。メネットの減少や高齢化が指摘されて何年も経ちますが、メネット委員会としても、今後どのようにメネット事業を展開すればよいかを協議しているところです。

このような状況の中で、去る2月27日(土)に、東京八王子クラブメネット例会に参加させていただきました。まず、メネット例会あるいはメネットナイトを実施しているクラブが少ないため、メネット委員長としては、大変うれしく、期待をもって参加をいたしました。

当日は、少し遅れてしまい、ちょうど卓話が始まるところで駆け込みました。会場におそろおそろ入ったところ、ご担当のメネットの方が席までご案内くださり、会の進行を妨げることもなく着席できました。そして落ち着いて見回してみると、参加者が揃って優しい笑顔で迎えてくださいました。また、用意されたTOFのお食事、おにぎりにお漬け物が添えられていたり、フルーツやデザートも付いていたり、と細かな心遣いを感じられるものでした。このような雰囲気作り、心のこもったおもてなしを感じさせる食事などに、メネットの心意気が現れており、期待は瞬時に喜びへと変わりました。さらに、東京西クラブの神谷雅子メネットから、春らしいピンクのスイートピーの花束が八王子クラブのメネットに贈呈され、メネット同士の交流にも心が和みました。

村瀬彰吾氏による卓話「松姫と徳川家康」については、すでにブリテン2月号、3月号で詳しく紹介されていますので、内容については省かせていただきます。とにかく卓越した話術に引き込まれ、楽しく、日本の歴史について多くを学びました。和やかな雰囲気や心のこもったお食事に加え、卓話がメネット例会を楽しく豊かな時間を共有する場へと導いてくれました。

このようにビジターに来て良かった、楽しかったと思われるような例会を持てるクラブは、メンもメネットも生き生きと活動する活気のあるクラブです。国際レベルではメンとメネットを別の組織と位置付けていますが、東日本区ではメンとメネットの協働なくしてワイズ運動の発展はないと思います。

今後も、メネットのみならず、メンとの協働を通して、東京八王子クラブの発展に貢献なさることをお祈り申し上げます。楽しく、豊かな時間を共有させていただきありがとうございました。

3月2日に東京まちだクラブの小山正直さんが召天されました。

幾度も大病をされては戻ってこられたことを知っている人は、また元気になられると信じていました。でも、神様は小山さんのお働きに「十分にやったのだからもう休んでもいいよ」と声をかけられて天にお連れになったのでしよう。

大好きな車の運転で町田から、八王子クラブの例会やチャリティーコンサートには何度も参加して下さいました。コンサートの打ち上げをいつもの居酒屋でした時も、車で来られての出席には皆でひやひやさせられました。帰りに何人かで車のところまで笑いながらお送りした時のことがつい最近のように思い出されます。あの体格と大きな声の存在感、まだまだ耳にお声が響きます。

今年はワイズの新クラブが町田と八王子の中間地点の多摩地区に設立されます。その準備で奔走され、中心になって力を惜しみなく注がれておられましたのに、つい設立を見ることが出来なかったことが小山さんには本当に心残りだったでしょう。

ワイズの為に生きて、ワイズ現役のままご立派な最後だったと思います。

私は個人的に小山さんにとってもお世話になったことがあります。12年ほど前のことです。町田市金井にNPO法人「クラフト工房ラ・まの」という障がい者の通所作業所がありますが、そこに私が関わっていた時のことです。

ちょっと混乱をきたした作業所の内部を立て直す為に四苦八苦していた時で、何かのお知恵を頂くために作業所の施設長と小山さんをお訪ねしました。

当時、小山さんは町田市の社会福祉法人「福音会」という老人福祉施設理事長をされていましたが、快く工房の理事長をも受けて下さり、定例会に足を運んで下さり法人化に向けての立て直しに力を注いでくださいました。作業所の展示会の折には、作品のきれいなスカーフを自ら首に巻いてお客さんに宣伝して下さいました。

もう既にお役は終えられていましたが、今、作業所は順調に歩んでおります。

培われたご自分の人生を惜しみなく社会、福祉に注がれたのが小山さんの生き方だったのでしよう。

桜美林教会でのご葬儀には、あらゆる町田の福祉関係の方々、沢山のワイズメンの参列でした。

小雨の中の尾根緑道の桜並木の小さな蕾が小山さんを静かに見送っておりました。

中大・学Y便り

震災との「距離感」

1年 渡邊 敦

あの震災から早いもので5年が経ちました。しかしまだ支援を必要としている方々がたくさんいる現状を見るといかに規模の大きな災害であったかを改めて思い知らされます。

このたび私は街頭募金及びチャリティーコンサートのお手伝いをさせていただきました。チャリティーコンサートでは照明の担当だったのですが、スポットライトを浴びる経験はあるものの浴びさせるというのは初めてで緊張しました。というのも高校3年生の時に演劇に打ち込み文化祭で舞台上上がったことがあるのです。

その時の演目が野田秀樹氏の『ロープ』。プロレスにおいてリング上でより過激な暴力をみせることで観客は興奮するということを踏まえ、ではリング上で戦争をみせるようになるのかという内容のものでした。そのとき内容の考察を行った際に重要となった言葉に「距離感のない暴力」というものがあります。「距離感のある」とはここでは遠いなり近いなり距離を感じられるということですが、「距離感のない」とはそういった距離を感じることができず、別次元のお話に聞こえてしまうということです。別次元の暴力なら絶対に自分が危険にさらされることはなく、そのような暴力を見せられた場合には恐怖を覚えず興奮だけが残る。

それを利用したものがプロレスという娯楽なわけですが私はこれと同じような感覚を震災当日に覚えました。津波のテレビ中継。あまりの悲惨さに正直ここが日本であるとは思えず、またその迫力に興奮していたと思います。当時の私は震災や津波に対し「距離感」を感じていなかったのでしょう。それについて恥だとは思いません。人間そういうものだと思っています。ただ震災にしる他の災害やテロにしる、同じ地球上で起きているため「距離感」はあるはずです。まずは自分も「客席」ではなく同じ「リング上」に立っていると自覚することが国家規模・世界規模の問題解決への第一歩となるのではないかと思います。

西東京センター便り

館長 中里 敦

4月になり、一気に春らしい陽気になってきました。西東京センターのある国立の大学通りは皆様もご存知の通り桜がとてもきれいな所です。卒業式など別れの寂しさ、また、新しい道を歩き出す期待と不安、色々な思いが重なる時期でもあります。そんな中、生き生きと咲き誇る桜は、それらの心をふと和らげてくれる存在でもあります。神様が創られた自然は大きな力を秘めているように感じます。桜がきれいなこのシーズンは人も多く賑わいもあり活気がある時期です。お花見にお出かけいただきセンターにもぜひ顔をお見せください。

3月に実施いたしましたプログラムも、おかげ様で大きな怪我などなく、無事に終了することが出来ました。このキャンプにおいても子どもたちにとって貴重な体験であり、これからの限らない成長の一助になることを願います。

4月からは子どもたちも一つ進級して新しい年度を迎えます。YMCAは小さな社会でもあります。これまでのプログラムを通して、年上のお兄さん、お姉さんたちがしていることに憧れをもって見てきました。今度は自分たちがその場に立つこととなります。また、新しい気持ちで、誇らしげにわくわく・ドキドキしながら活動に参加してほしいと思います。また、小学校、中学校とも上級学年に近くと塾や習い事が忙しくなるために定例活動をやめる子どももいます。YMCAから少し離れることとなりますが、YMCAでの体験はきつと生き続けて行くことでしょう。そして、シーズンキャンプ、リーダーなど帰ってくる場はいくつもあります。YMCAは常に開かれた場所です。また、戻ってきてくれると信じています。

『わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。』（コリントの信徒への手紙2第4章18節）この聖句は西東京センターの2015年度の年間聖句でした。2016年度も引き続きこの聖句を基に活動を行っていきます。この聖句が意味する事を考えつつ西東京センターに関わるお1人おひとりとの出会いを大切にしていきたいと思います。

4月の西東京センターも出会いと別れがあります。これまで5年間お世話になりました村山達哉が、高尾の森わくわくビレッジに出向となります。長きにわたりご支援いただき育てていただいたことに感謝申し上げます。そして、出沼一弥（いでぬまかずや）が山手センターより異動してまいります。東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブの担当もいたします。新たな体制でのスタートとなりますが、これまでと変わりなく西東京センターを共に支えさせていただきますようお願い申し上げます。

(お 話)

日本聖書協会ではいま新しい翻訳聖書に取り組んでいるので、そのPRの一環として原典からのモンゴル語聖書翻訳を推進しているガラム・バヤルジャルガルさんの講演会を開いてくれました。そういう機会の開会前には、いつもこの聖句が朗読されるのでご披露します。

フィリピはパウロの伝道が最も効果的に行われた場所でしたので、フィリピ宛に手紙を書くのはパウロにとって喜びでした。そのためでしょうか、フィリピ書には喜ぶという言葉が多いので有名です。

モンゴルはソ連の共産主義の圧政から革命を経て自由化されてきた中でキリスト教なので、信者はまだ1%程度のように、翻訳には多くの課題を抱えており聖書の出版も一筋縄ではいかないと思います。

「中国語の聖書に親しむ会」では、参加者の黒瀬博牧師が選んでくださったフィリピン人への手紙を今学んでいます。モンゴル人のガラム・バヤルジャルガルという名前には喜ぶという意味があるのだそうで、偶然というのは面白いものです。喜びの中に世界中の聖書翻訳が推進されるように祈るばかりです。

仲田 達男

報 告

3月第二例会

日時：3月26日(土) 18:00~20:00

会場：北野事務所小会議室(担当C班)

出席：小口・多河・中里・中塚・並木・長谷川・福田・茂木・望月・山本(10名)

【報告】

・第18回チャリティコンサート

出演者：三上佳子・川村敬一・大杉祥子
渡辺美緒貴(JCBL)

メン：久保田・小口・佐藤・多河・中里・仲田・中塚・並木・橋本・長谷川・福田・眞野・茂木・望月・山本

メネット：久保田・仲田・並木・眞野・茂木

ひつじぐも：井上・菊地・小林・佐藤克彦・佐藤千紘・渋谷・須郷・渡辺・中野・藤永西東京センター：大橋麻亜紗

会計報告：JCBLと東日本大震災支援に各145,000円寄付

・台湾南部地震支援募金に寄付

・新クラブ(多摩センター周辺地域)設立状況
設立総会は5月22日クラブからお祝い金

・東京YMCA西東京センターより

3月11日東日本大震災支援街頭募金—50,333円

4月16日(土)武蔵野YMCA60周年を祝う会

【予定】

・4月第一例会4月23日(土)北野事務所大会議室

・4月第二例会4月9日(土)北野事務所小会議室

・三クラブ合同メネット会4月16日(土)甲府にて

・第3回あずさ部評議会について

5月14日(土)13:30~17:30(受付13:00)

高尾わくわくビレッジ研修室②

ネーミングを「アイリス評議会」とする

・DBC合同例会—5月21~22日

・中大ひつじぐも新入生歓迎BBQ5月29日(日)

高尾わくわくビレッジロビー—9:30集合

【次期の役割について】

会長—中塚 副会長—小口・多河 書記—久保田

会計—長谷川 ブリテン—山本 CS—茂木 Yサー—辻

EMC—並木 交流—多河 ユース—小口 ファン—福田

ウエルネス—茂木 監事—仲田 担当主事—中里

メネット会長—並木雅子

* 老人デイサービスセンター—鍵水*

【報告】

3月28日(月)ペーパーフラワー 14:00~15:00

参加者：赤羽・石井・山口・山中・茂木

【予定】

4月18日(月)ペーパーフラワー 14:00~15:00

BF 2016年度3月報告

切手：(国内)240g

累計240g

西東京センター行事紹介

【4月】

2日(土)~3日(日)さくらフェスティバル

@谷保第三公園(国立市富士見台2-34)

武蔵野・多摩ワイズメンズクラブとリーダーを中心に、国立市のお祭り「さくらフェスティバル」で子どもたち対象のクラブトやバザーを行います。当日のご参加、バザーの献品のご協力をお願いしております。

16日(土)西東京センター60周年記念会

@国立商協ビル「さくらホール」

武蔵野から始まり60年を迎えました。武蔵野、立川、杉並、昭島とそれぞれ会館は無くなりましたが、活動やYMCAの思いは現在の西東京センターへ脈々と引き継がれています。記念会を通じたYMCAに集いサポートして下さる人を増やしていきたいと思います。

29日(金・昭和の日)ペタペタの会八王子ウォーク

八王子市の多摩丘陵コースをめぐる。絹の道や長沼公園の新緑を愛でて、ランチには麦とろ飯をいただく予定です。

時間：10時00分~14時00分

申込：電話、メール、FAXにて、4月22日17時までにセンターまでご連絡ください

参加費：無料(ただし、交通費、飲食代等は各自負担)

東京YMCA西東京センター

東日本大震災祈りと街頭募金

久保田貞視

3月11日14時46分西東京センターにスタッフ、ボランティアリーダー、宮崎さん、ワイズメン(宮内ワイズと久保田のみ)が集まり、東日本大震災追悼の祈りをささげた。既に丸5年となるが、まだ、仮設住まいも多く、精神的に病んでいる人、放射能に侵されて県外脱出せざるを得ない人々が多い。

続いて、福島県郡山市「ワイワイキッズ 屋内子供プログラム」、三菱商事支援による「リフレッシュキャンプ」及び日本基督教団による「こひつじキャンプ」などの活動報告とリーダーの体験談の発表があった。被災地の子どもたちの支援の体験はリーダーたちにとっても心の奥に残る貴重な経験であったと思われる。

16時半より一時間、国立駅前で2組に分かれて街頭募金を行った。我が組は、一時、女性リーダー2人と小生だけになったが、2組、合わせて、49,833円の募金が集まった。効率よい街頭募金であった。

今日は、大震災から5年ということで、テレビでも放映されており、関心が高まっていたともいえよう。

東日本大震災を風化させず、現地のニーズのある限り支援を継続するのがYMCAの役割だと思っている。

4月誕生日の会員

久保田 貞視 4月8日

松本 淑子 4月15日

橋本 秀昌 4月18日

仲田 節子 4月24日